

加茂里山通信

平成26年夏号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
発行責任者 榊原義久
編集長 征矢貴造

里山に木タル舞う

葉がこれほど天候に左右されたことはなかったろう。雪の影響で餌となるワニが居なくなり、葉の抛り所のクレソンがチラホアとしか生息しない状態だった。それも5月の終盤の新月の頃から徐々に増えてきた。

里山の会での葉まつりの開催日程を毎年6月第一週末としている。しかし今年は大候が思わしくなく、日曜日だけの開催となった。朝からメンバー総出で照明の取り付けや道の整備を行い、葉が舞い始めるのを待った。地元の方や遠くから参加した方々に感動を伝えられたらと祈った。すると里山の整備をしてきたメンバーの気持ちが伝わったかのように、多くの葉が乱舞し始めた。

今では古敷谷のまわりで葉を見るのが出来るようになった。またまた楽しめる良い地域を残さなければと関係者はみんな考えている。

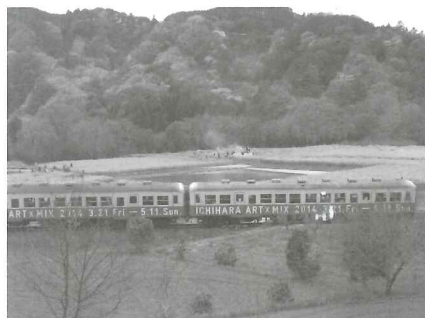
(矢代里山通信員)



いちばアートミックス 一言メッセージ

市原アートミックスの期間中は廃校になった小学校に人が集まり、バス停に人があふれるなど、子供のころのお祭りの時のようなワクワクした気持ちにさせていたなきました。

今まで里山で暮らしていても、なかなかゆつくりと景色を眺めることもない毎日でしたが、アート作品を見て回りながら、改めて故郷の良さを認識することが出来ました。



そこへ地域の皆さんにも一言ずつ感想をお聞きしました。「なのはなわきたち祭りに踊って参加の中條君さん、歳を忘れましたよ。痛いところも忘れちゃった。」おにぎりのための毎週運動会の校長先生、松本靖彦さん(小学校のOB)がたくさん参加してくれました。協力感謝します。紅組応援団長 鈴木重吉(本当は良いところが作れた。楽しく参加させていたなきました。この地域に生まれてよかった!)月崎君(作家さんや葉の花フレイズのお手伝い役、高山光子さん(童謡会をない人にたくさん会えました。楽しかった)葉の花フレイズとして月崎君に滞在していた東島さん(みんなあつたかくて、こころは私にとってのパラソルスです。))

アートミックス案内所高山商店、高山英子さん(翁若いアベックが手をつないで歩いてるの見たら、うれしくなっちゃった)指輪ホテル飯盛駅エキストラ、木村みどりさん(機をた

たらまた参加

したいです。オバケノ学校へキテクダサイに声の出演、農村作家、遠山あきさん(ホラソンの皆さんが手弁当で一懸命で感じました。市内の人に広報が行き届いていなかったのが残念です。))



サンタルの食堂のお世話役、モグラTVにも出演の鈴木恒雄さん(次に来るときはもっと頑張ります!)小湊鉄道社長、石川重平さん(社会的には赤字のイベントでしたが、2回目、3回目の成功を目指して協力します。))

各現場の受け付け係、あそびの谷の食堂のお手伝い、高滝湖でのボート漕ぎ、運動会の参加や応援、月出小の準備片づけ、葉の花畑の準備、白鳥公民館での作品を見て盛り上がった人、里見小で凍えた人、白鳥小でモグラの気分になった人、みなさんの感想をお寄せください。(大曾根里山通信員)

舞の海氏 加茂で講演会!

(征矢里山通信員)

なま発展を期待します。

6月28日(土)の午後、加茂公民館にて舞の海秀平氏の講演会がありました。これは加茂公民館の自主事業で、当日は小雨降る悪条件ながら用意された450人分の席をほぼ満席にする盛況でした。最初に公民館側からこの事業の趣意説明がありました。これをきっかけにより多くの人に公民館に興味を持ってもらい、もっと多くの方に公民館を活用してもらいたいというこででした。講演会場の体育室の後方には相模関連の資料が並べられていました。歴代の相模取の手形の大きさは驚いたのですが、その資料の中に一つ興味深い物がありました。高滝神社を背景に双葉山と当時の地域の関係者が写った写真でした。昭和19年とあったので太平洋戦争末期にこの地にやって来たわけですね。どうしてその頃に高滝にやって来たのか、ぜひ知りたいところです。



舞の海氏の講演は9時からでした。タイトルは「可能性への挑戦」。長年のNHKの解説で培った聞き取りやすい

話方・スピードで、私たちがテレビでは知り得ない様々な相模界の話をいろいろなエピソードを元に語り、会場は笑いに包まれ、また当時の舞の海氏と横綱を合わせた力士たちの姿も思い起こしながら聞き入りました。小柄な舞の海氏の、巨漢とも言うべき小髯、躍動感と面白い取り組みはなかつた気がしました。もちろん力で飛ばされる時もありましたが、技や機転で3倍くらいある相手を倒したときなどの小気味よさは見る者に相撲の醍醐味を教えてくれるものでした。その舞の海氏も最初から天相撲に入ろうとしたのではなく、就職先も決まっていた学生最後の年に後輩の一人が急に亡くなり、死はいつも生と隣り合わせにあるということを知り、やりたいことをやることを考えたとい

います。しかし当時の新弟子検査の体格相準の身長には足らず、そこからがまさに挑戦でした。誰も考えなかつた頭にシリコンを少しずつ詰めていくという方法も、基礎値をクリアしようとしたこと、当日のできごとなど、興味のつきない話でした。NHKでの相撲解説をこれからは親近感を持って聞き入ることにしようです。

今回の講演会が地域の公民館の自主事業として大成功でした。

毎年一つでも二つでもこうした事業が開催され、地域の人々が集う機会が増えればと思います。講演会の開催に努力された公民館の関係者の皆さんに敬意を表すると共にさら

次にはもつと アート×ミックスが終わり

5月1日をもって52日間わたる中房総国歴術祭「いちほらアート×ミックス」が終了しました。期間中にはネット上でもさまざまな批判や評価がありました。終了した今、いろいろな人がそれぞれの観点から色々と評価をしています。20万と予想した来客数をその半分にも届かなかったことをもって失敗だったという人もいれば、どこでも最初はこんなもんだし、菜の花の桜の時期に開催され地域のひと帯となって出来て成功だったという人もいます。総



じて何らかの形で関わった人参加しただけでなく、おもしろく、そうでもない人に関心の対象もあつたようです。

またとない経験

私にとっては初めての面白く、またとない経験でした。昨年の夏に所属する地域の会話合いをして参加を決めサポーター登録をし、月崎の墓を整理するところから参加しました。その墓がどのように使われるのかまだわからなかったのですが、作家の岩田さんとサントラルの人たちと出会い、初めてサントラルの人たちとその文化についての話を岩田さんから聞きました。その後月崎の墓が使われているという六本木ヒルズの毛利庭園に制作された小屋を見る機会がありました。その土の壁面に手をコテにして施された素材で柔らかく暖かい意匠に魅了されました。開催中の市民の森の藁と竹の小屋にも度々行き、竹だけで強度を保ち小屋を造れるんだと感心し、そこに展示してあったアークセサリーとアークセサリーよりも魅力的だったケースに魅せられました。色紙の張り合わせで、同じようでありながら二つとして同じものがないパッケージはそ

信発からの山里

れだけで作品でした。月出小の藁集めと校舎の中の片付け、木の伐採、プールの清掃も仲間と参加しました。集めた藁を土壁へと練り込められ、木の伐採によりプールが下から見えるようになり、ヘドロの溜ったプールが昔目の姿を取り戻し、そこに鮮やかな藍染めの布がはためいているのを見たのは開催中のことでした。演出家カン・ユンスさんと韓国人、ノルウェー人、英国人、日本人の仲間たちとのグループの激励に参加して一緒に酒を飲み、芝居を見て、楽日には打ち上げ会でも一緒に酒を飲み、持つていった日本酒に感動してくれたことも記憶に新しいところです。又、開催期間中は湖の飛行機のところのボートの乗り降りの介助を仲間たちと、閉会後の片付けにも参加し、

最後に作家の土屋さんたちや推進室の強力な助っ人内海さんたちとバーベキューをしたのも楽しいことでした。後日土屋さんからの着の色鮮やかな開催中のユニフォームをもらったのもそのときの約束でした。又、宿屋をやっていらっしゃるおかげで外国の作家さんたちと触れ合うことも出来ました。普段ハリやニューヨークで活躍、世界的に注目されている作家さんたちの作品を加茂地区内で見ることが出来ました。片言の英語を交えながら程度でも意思の疎通はできるといこともわかりました。サポーターとして参加したり、取材を通して知り合うことの出来た人もいました。推進室や美術館の人たちとも知り合うことが出来ました。白鳥次良館

人の活性化から

以前述べたように、地域の活性化はそこに住む人の活性化に他なりません。そこにいる人間が行動に移ることで活性化は生まれます。参加された人たちの声は今号別冊「いちほらアート×ミックス」一言メッセージを読んでいたければわかります。それぞれの躍動感が伝わってきます。里山劇場「百鬼夜行」の芝居に踊り出て出演した人たちは、おそろしく人生で初めてみんなの目で見られる前、劇場の芝居に出演したことで、その興奮も高揚感も初めて味わうものだったと思います。月出小は大きく変貌しましたが、多くの若い作家が関わり、一生懸命作品に取り組み姿勢は地域にとって大きな刺激であったと思います。(地域の活用から) 一言で、富山



小高渾小、石塚、万田野地域が使われなかったのは惜しむべきことでした。アートミックスの目標が地域の活性化の起爆剤としてというところから、その点からすれば、大分とはいえないにしても次に繋げる核になるものを地域の少なからぬ人たちの心に残した点で、成功ではなかったかと思えます。

3年後の開催が楽しみです。合間合間に変わった様々な問題をクリアして、次は更に多くの人の心を動かす、そういう芸術祭につながることを期待します。(征矢里山通信員)

応援のうた

6月初旬に古敷谷の浅間神社で祭儀が行われた。以前より古敷谷を再認識するためにいろいろ聞いて回っていた。その中でこの神社の話も聞いていた。しかしこれほど見晴らしの良い場所にある神社とは思ってもいなかった。古敷谷を、パノラマのごとく見渡せる良いところ。富山小学校の児童も遠足でよく来ていた。一時は不法投棄などが行われ、住人の手で回復し管理しなければならぬ状態になってしまった。今では一般の方に開放していない。

加茂の食文化

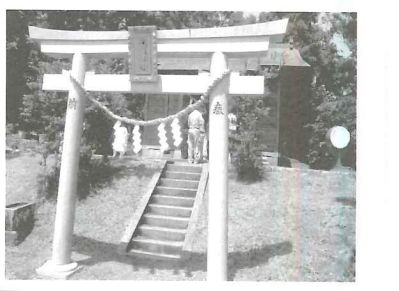
新緑が眩しくなってきた。4月中旬から5月にかけてが「フキの糖漬け」の季節です。仲間と山へ繰り出して、野フキの収穫をします。まずは葉を落とし適宜に束ねてひもで縛ります。かまどで湯を沸かしフキを茹でます。(この時の茹で加減が重要。茹でたフキを水にとり、冷ましてから皮をむきます。その後再び束ねてひもで縛り、樽に入



こまでが3〜4人で協力し合い、一日がかりの作業です。3日間ほどさらしてから、ザルにあけて1晩水を切り干す。糖と塩を混ぜラキと交互に漬けていきます。最後に糖を乗せ重しをして本漬けの終了です。このように手間は時間もかかりますから、作る人も年々少なくなっています。加茂文化遺産にならないように伝えていかないと、いけませんね。(大留根里山通信員)

朝日に燃える紅は

青亮高倉を立つその名も高し富山校今日ぞ 栄えある若人の腕(かいな)を振るははなまきぞ朝日に燃える紅は(白鷺登の行くところ) 向ふ所敵はなし(若き我らの誇りなり) 勝利を告ぐ勝鬨の力を試すは今日なるぞ浅間山のふもとに鍛え上げたるが選手且頃待たし、その技は輝く勲の優麗旗(大留根里山通信員)

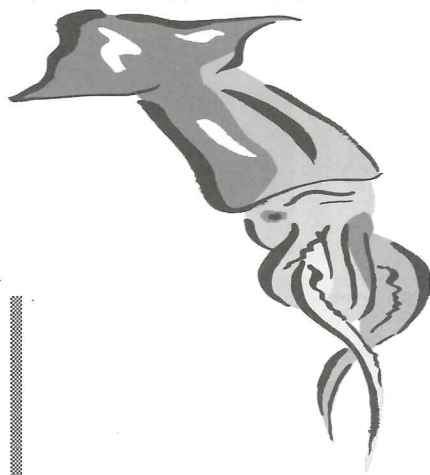


キムチゲや石焼ビビンバをはじめ
韓国家庭料理が評判!
美味しい料理とお酒でカラオケ三昧

居酒屋
大ちゃん 2
(株)音楽プロデューズ NO MOSS
TEL 090-2629-9600

魚屋の戯言 塩辛の話

かつては一年を通じて豊富に入荷していたスルメイカが、最近では1月から6月まであまりみかけなくなり、7月から出回るスルメイカで塩辛を作ることが多くなりました。



イカをお買い上げのお客様の中には「内蔵は要りません」とおっしゃる方が案外多くいらっしゃるので我が家の塩辛は肝が多く、市販の塩辛と比べて少し贅沢な作りができてはいるが、塩辛に関しては読者の皆様それぞれに作り方やこだわりがあるのを承知の上で、「興味はあるけどまた自家製の塩辛は作ったことがない」とおっしゃる読者の方々に我が家流の作り方を紹介する事にしました。

塩辛を作る際にはまず最初に自分の手と道具を丁寧に消毒します。イカを生きたまま数日間保存して食すようとするのですから、雑菌が入る可能性を極力避けなければならぬのは言うまでもありません。手首の上まで石鹸で十分に洗ってから調理に取り掛かります。また板を包丁は完全に乾燥させておき、特にまな板は乾燥後冷蔵庫で冷やしておくと、イカに熱が伝わりやすくなり調理が楽になるので安心です。次の段階は肝と身からできるだけ水分を抜いておくこと。これがきちんとできれば水っぽくない塩辛になります。胴体から取り出した肝をよく見ると、横に黒っぽい筋状の墨袋がついているので指でつまんで取り除いて下さい。これをしないと全部が塩辛の黒い色になって黒作り塩辛ができてしまいます。肝を予め冷やしておいたバットに並べて塩をまぶし、斜めにした状態で冷蔵庫に5〜6時間入れると水分が抜けるのでそれを待ちましょう。少量の場合は陶器の皿や発泡スチロールのバックでも代用できます。身に皮を剥いたまま作る方法と皮を取って作る方法がありますが、皮を取って作る方が生臭さが消えてくれるようです。身も同時に冷蔵庫で寝かせれば表面の水分がなくなって、より濃厚な仕上がりになるでしょう。あとは肝を包丁で開き、裏返ししてから細切りにしたイカの身と混ぜれば作業は殆ど終わり。少量の肝でしたら味噌(し)で裏返しできます。最後に味を確かめてから食べごろになるまで冷蔵庫に入れ

ておくだけです。湿った直後は「なんだか水分が少ないな」と思える状態ですが心配いりません。数時間でイカに残った水分が出てきて美味しい塩辛になります。

イカの塩辛は鎌倉時代には既に存在していました。その頃はまだ肝を除去する方法が発見されておらず、イカを大量の塩に漬けて水分を抜くことによって保存できる期間を長くしていたので、文字通り相当塩辛い食べ物だったようです。その後、肝に含まれる消化酵素の働きで発酵する事が分かり、たんぱく質をグルタミン酸などのうまみ成分でもあるアミノ酸に分解してくれることも分かってきて、保存性を高めると同時に大変美味しい塩辛ができるようになりました。

また、イカの肝を利用して作る旨エビや帆立の貝柱などの変わり種の塩辛も負けず劣らず美味しいものです。今まで作ったことのない方も今年に挑戦してみたいかと思いますが、食卓が一層華やかになると思います。(鈴木里山通信員)

花火大会中止

これまで長く続けてきた高滝湖市民花火大会が諸般の事情で中止が決定されました。観光協会では、警備にもっと人員を割くように要請されていることや、バス等の活用など、さまざまに経費が膨らみ資金難であることから中止を決定した旨の説明をしています。湖畔に花咲く夏の風物詩がなくなるのは残念ですが、花火をタダで観ることができると考えている多くの人にとって、大変なお金が一夜の花火に使われているのだという事実が示されたとも言えます。市民花火大会なので、観光協会ではなく市が主体となって再開できるように地域の住民としては望みます。

昭和村納涼盆踊り大会

日時 8月9日(土)
18:00〜20:30
会場 万野 昭和村
主催 社会福祉法人 昭和村
協賛 万野 万友会
かき氷・水ヨーヨー・飲み物(ノンアルコール・ビール・ジュース類) 無料
豪華景品の抽選もあります

タケノコのご協力 ありがとうございます

ありがとうございます

前号で「福島にタケノコを」として皆様からタケノコを持ってきていただく呼びかけをさせていただきました。今回は出荷可能産地証明書をお持ちの方の限定での呼びかけでしたが、4月25日の朝に132本のタケノコが集まりました。目標の500本には足りませんが、次の日の朝に福島県のいわき市に届けました。当日は震災遺児・孤児のための「チャイルドハウス」の開所日で、多くの人が集まったところに持って行ったところ、瞬間に列ができてはしゃいでしまいました。現地のスタッフの人たちには渡らなかつたため、その後もう一度タケノコを集め、送りました。市原産のタケノコを多くの人に喜んでいただきました。後日、特定非営利活動法人「くしま震災孤児・遺児を見守る会」の理事長、曽我泉美さんから次のようなお礼状が届きました。

謹啓 日頃は特定非営利活動法人「くしま震災孤児・遺児を見守る会」に対し、「理解」と「協力」を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびの「チャイルドハウス」をめぐまる、開設に当たりまして、同会に対し多大なるご支援をいただきました。誠にありがとうございます。福島県の震災孤児・遺児ならびに福島の子どものために有意義に活動していただいております。

今後ともご支援のほど、よろしくご願ひ申し上げます。

来年もタケノコを福島に送る計画を考えています。来年には証明書は必要なくなるとのことを見通しを聞いています。その時はまた皆さんの「協力」をお願いいたします。

(加茂里山通信スタッフ一同)

・過日、牛久駅で駅弁を販売したり案内所内を案内したりお土産を扱ったりと活躍した牛久の人たちと、アートミックの推進室の人たちで打ち上げをするという場を設けられて、本編集部から私と天宮根君が参加しました。当日は湖畔美術館の女性スタッフの名も参加しました。難しいことは言わずに今日は楽しく飲みもつ牛久の大岩さんの挨拶が終ると一気になかなかな談話の場。



た。ボランティアのサポーターの窓口として当初は古宮さん、のちに内海さんへとバトンが渡され、常に笑顔で元気な頑張りは多くの人の知るところです。

初めは市原市役所の職員かと思っていたのですが、彼女もまた瀬戸内の香川から駆けつけたサポーターであることをすつと後に知りました。この写真中にも右側中程に、そして「里山からの発信」のバーベキューの写真の奥にも入っています。里山にもいきました。湖の飛行機の当番の時も、片付けの時も顔を合わせています。強力な助っ人に助けられた面は多々あったのではないかと思います。香川に帰つての活躍を祈ります。

編集後記

・この写真もそうですが、今回は飲み会での写真が多くなりました。でもこの写真でわかるようにみんな笑顔を見せています。市役所の職員も美術館のスタッフもそして地元の人々も美しい顔をしています。本当に楽しいひと時でした。

・ダムから上流の農業の空巾散布がなくなつてからホテルがあらちで見かけられるようになりました。タニシやドジョウの復活と共に、日本の昔の夏が帰ってきた感じがします。エサとなるカワニナの発生状況でホテルの数は毎年違つとはホテルウォッチャーの矢代通信員の弁です。今年はその時期が過ぎてしまいました。来年は足を運ぶホテルの乱舞するさまを見非目にも焼き付けて下さい。(征実山通信員)

情報提供・取材依頼はお近くの通信員へメールでも受け付けます。

紙面及び記事に関する意見・お問い合わせは下記へ
市原商大議所
0436(22)4305 担当 川崎まで
Eメール kawasaki@cc-i.or.jp

次回は10月25日発行予定です。

房総・養老深谷の地酒お土産は
養老深谷駅前
角屋商店
養老深谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL 0436-96-1108
FAX 0436-96-0052

愛車のある幸せを暮らし応援します!
安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL 0436-96-0482
FAX 0436-96-1293

皆様と共に歩む観光
バス釣り絶好調です!
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277